

SS1-1

回復期生産年齢脳卒中患者のリハビリテーションに対するモチベーションについての質的研究

The motivation for rehabilitation in productive aged patients with subacute stroke : A qualitative study.

○吉田太樹 (OT)^{1,2)}, 大高洋平 (Dr.)^{1,3)}, 熊谷将志 (OT)^{1,4)}, 北村 新 (OT)^{1,5)}, 八重田 淳 (Rh.D.)²⁾

¹⁾東京湾岸リハビリテーション病院, ²⁾筑波大学大学院生涯発達専攻 人間総合科学研究科, ³⁾慶應義塾大学医学部 リハビリテーション医学教室, ⁴⁾千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学, ⁵⁾首都大学東京大学院人間健康科学研究科

Key words: 動機づけ, 回復期, 質的研究

【はじめに】モチベーションとは、心理学では何かをしようとする意思であり、その行動が出来ることが条件付けとなつて、何らかの欲求を満たそうとすることであると定義されることが多いものの、リハビリテーション医学分野ではモチベーション概念自体に言及した研究は非常に少なく、専門家間でも共通認識が得られていない。

【目的】回復期病棟に入院している生産年齢脳卒中患者のリハビリテーション訓練（以下リハビリ）へのモチベーションの概念を明らかにする。

【方法】当院に入院している65歳未満の脳卒中患者（年齢中央値53歳，四分位範囲49-58）で、MMSE24点以上のものを対象とし、合計10名（男性7名，女性3名）にリハビリに対する半構造化面接を実施した。半構造化面接に使用する面接ガイドは合計5つの設問事項から構成され、作成については患者数名に事前にモチベーションについての面接を実施し、その内容を元に作業療法士3名，理学療法士1名，医師1名，リハビリテーション工学士1名の合議により作成した。面接内容はICレコーダーにて録音し、逐語録を作成した。逐語録をKrippendorffの内容分析の手法に従い分析を実施し、コード，サブカテゴリ，カテゴリ，コアカテゴリを作成した。コアカテゴリ作成までの過程で，作業療法士3名（平均経験年数6.7±1.5年）により，抽出した文章と面接内容の照合を繰り返し行い，信頼性および内容妥当性を担保するよう努めた。なお，本研究は当院倫理審査の承認を得た上で，面接対象者へは書面にて同意を得て面接を実施した。

【結果】面接対象者の基本属性は，発症から面接実施までの平均日数84.7±36.3日，面接実施時FIM平均得点113.5±14.2点であった。インタビュー実施平均時間は1037±238秒であった。

面接から，407の1次コード，212の2次コードが抽出され，65のサブカテゴリ，22のカテゴリ，7のコアカテゴリが作成された。作成されたコアカテゴリは，専門職からの影響，患者間関係からの影響，支援者からの影響，身体状況による影響，成功失敗体験の影響，目標による影響，行動への影響であった。カテゴリ内容（サブカテゴリ数 [2次コード数]）は，医療者との関係性の影響（5 [15]），医療者からの声かけの影響（2 [14]），訓練方法・訓練経過による影響（9 [30]），患者交流による影響（4 [12]），他患からの影響（4 [18]），支援者の存在（2 [5]），支援者からの声かけの影響（2 [5]），病院システムからの影響（1 [1]），疲労感からの影響（3 [6]），2次的障害の出現の影響（2 [6]），身体機能・能力改善の影響（2 [23]），失敗体験による影響（3 [4]），個人的目標による影響（6 [17]），家庭内役割の影響（2 [2]），社会的役割の影響（2 [12]），障害受容の影響（1 [1]），自主トレ時間の変化（2 [12]），他者交流頻度の変化（2 [7]），自室滞在時間の変化（2 [6]），表情・言動の変化（5 [7]），訓練態度への影響（3 [7]），行動変化なし（1 [2]）であった。

【考察】回復期リハビリに対する生産年齢脳卒中患者のモチベーションとは，他者との関係性という外的要因と対象者個人目標や身体状況などの内的な要因に影響されるものであり，自主トレ，他者交流といった行動へ影響を及ぼしていることが明らかとなった。その中でも，専門職とのリハビリ内容や訓練経過，身体機能や能力の改善がリハビリへのモチベーションに影響する可能性が高いことが明らかとなった。